

ando-news

千葉県公立高校入試まであと二ヶ月程となりました。三年生は日々努力していると思いますが、「まだ全然勉強してないよ！」という人もいるかもしれません。そんな人や、これからもっと点数を伸ばしたい人の為に今回私の担当教科でもある社会の勉強法アドバイスをしたいと思います。

まず、社会は暗記科目です。ほとんどの問題が出来事や年号、人物名、地名などを答えさせる問題です。暗記量が多いほど高得点を取れると良いでしょう。その暗記を効率よくするためには人間の記憶に関して知っておかなければいけません。人間の記憶は大まかに短期記憶、長期記憶に分けることができます。短期記憶は20秒～1週間程度、長期記憶はそれ以上記憶の保管が可能です。人間は見たもの感じたことをまず短期記憶(脳の海馬)に保管します。そして特に重要だと認識したものを長期記憶(脳の側頭葉)に保存するようにできています。例えばテスト前に一夜漬け(短期記憶)をして良い点を取ったとしても、その2

週間後くらいには忘れてしまうのです。そして高校入試のテストは一夜漬けが出来るような量ではありません。必然的に長期記憶が必要になります。学習において長期記憶に必要なことの一つ目は復習です。繰り返し復習することにより人間の脳は、それを重要な情報だと認識します。二つ目は印象です。その事柄に対して考えたり驚いたりすることによって長期記憶に保存されやすくなります。そのため歴史や地理は時代背景や出来事の繋がりを覚えることが効率の良い勉強法だと私は思います。

具体的には、単元ごとに区切り参考書や教科書を読んで歴史の流れを把握します。そのあと年号や事柄を覚え一問一答形式の問題集を解きます。わからなかったら答えを見て覚えましょう。これを最低3回は繰り返してください。基礎知識は頭に入るはずで、そして応用問題に取り組みましょう。ここでポイント！ 反復学習は同じ日に行わないこと、日をあげ過ぎないことです。あとはやる気次第なので、志望校に合格したいと強く思うなら行動あるのみです。ともに頑張りましょう！！

冬 期 講 習 受 付 開 始 ！

UNNO NEWS

早いところでは1/18から私立高校入試が始まります。つまり、冬休みが終われば本格的な入試がスタートするわけです。今までの年末年始とはわけが違います。冬はとにかくひたすら問題を解きます。入試直前の緊張感から学習効果の高まる冬。その分今冬の学習は入試の結果を大きく左右するものと言っていいでしょう。今までは知識の積み重ね。これからはどちらかというと、今まで積み上げてきた知識を知恵に変えていく作業です。『「覚えた」から「理解し

た」までの工程で得られる「経験」を得なければ、「知識」は「知恵」にならず、「知恵」で無ければ「知識」は生かせない。』羽生善治名人※1の言葉です。簡単に言い換えると、教えてもらって「わかった」だけじゃダメ。その問題、または類題を自分の力で解いて、解いて、解きまくって「出来る」にならないと意味がないよ、ということです。もっと簡単に言うと「わかった気になっていませんか？ 自分で出来て初めて一人前。そのためには実践あるのみ。」です。というわけで、冬期講習・正月修行では模試形式の問題集を徹底的に解きまくります。お楽しみに。中学3年生以外の学年に関しては冬

IGAWA NEWS

年を取るごとに1年を早く感じる今日この頃・・・皆様こんにちは。今年も紅茶を飲みまくり、インフルエンザに備えまくっています伊川です。

トレスに来てくださっている看護師の方から、紅茶にインフルエンザの抑制効果なんて「全くないわよ」と全否定され少しだけへこみました。ですが今日まで24年間、一度もインフルエンザにかかっていないのは間違いなく紅茶だと私はこれからも思い続けます！！たとえ紅茶に効果がなくとも、プラシーボ効果によって・・・とまあ、紅茶のくわしい効能についてはトレスニュース第8号に掲載されていますので、興味がある方は、トレスのホームページからご覧ください。

さて、今月のテーマは「はやぶさ2」です。はやぶさ2ばかりに話題が回っていますので、天の邪鬼な私はその周辺情報にスポットを当てていきたいと思っています。まず今回めざす惑星は「1999JU3」。 「1999JU3」は近いうちに愛称が決まると思

←詳細は別途紙面で。

期講習集団授業は実施致しません。個別での対応は可能ですが、コマの空き状況に限りがあるためご希望に添えない場合がございます。あらかじめご了承ください。

※1 羽生善治(はぶよしはる):将棋の名人。天才。将棋のタイトルが7つ。過去10年、延べ70人のタイトルホルダーがいるとしたら、そのうち35人が羽生。七冠独占したことも。「50年に1度の大逆転」を年に数回起こす。将棋が強すぎて暇つぶしにやったチェスで日本一に。とにかく天才。

います。この「1999JU3」は、はやぶさ1号機が着陸した「イトカワ」と同じ小惑星です。ただし、イトカワとは違い、C型に分類される貴重な小惑星です。小惑星にはS型とC型があります。S型は石でできており、C型には炭素が豊富にあります。炭素は、酸素と結びついて二酸化炭素になったり、水素と結びついてメタンになったり、変化しやすい元素です。にもかかわらず大量の炭素が残っているということは、その小惑星が誕生以来、手つかずで生き延びてきたことを意味します。つまり、46億年前に太陽系が出来たときの姿を知るうえで、とても貴重です。現在確認されている小惑星は、60万個。しかし、日本の技術で行くことができる小惑星は30個しかありません。そのなかにイトカワもある訳ですが、C型に分類される惑星は今回ははやぶさ2が向かった「1999JU3」しかないのです。つまり60万個分の1！！イトカワは、望遠鏡などにより姿形がはっきりと観測出来ています。しかし、「1999JU3」はC型に分類され里芋のような形という情報以外はまったく分かりません。だから、多くの報道局はオリジナルのCGを使って表現しているのだと思います。そして今回の「はやぶさ2」は消滅しません！！小惑星からのサンプルを採取することができたら、カプセルだけを地球に向けて放出。その後、はやぶさ2には別のミッションが与えられる予定です。壮大すぎる計画。カプセル帰還予定の2020年が楽しみです。